

岩槻協議会
会報
第23号

シニア大学岩槻校

協議会会員の皆様へ

岩槻協議会会長

瀧田 和雄



この度、総会で信任をいただき会長に就任させていただきました九期の瀧田でございます。深井年度からバトンを受け継ぎました。会報誌の発行が本来でありました。第一号が六月に発行される予定でありましたが、諸般の都合で今月の発行となりましたのでご挨拶の内容が些か異なりますことをお許しただきたいと思えます。

皆様ご存知の通り、二月来突然に降りかかってまいりましたコ

ロナウイルスという禍のために、スムーズなスタートを切る事が出来ず、二か月以上も皆様と顔を合わせる機会を持つことも儘ならず、やっと六月になって何とか少しずつ活動が再開できるようになりました。

これまででは全てにおいて何の変哲もなく順調に物事が運んでいましたが、このコロナ禍のためにすべての計画も予定も完全に元に戻されてしまいました。せっかく楽しみにしておりました文化祭の開催も練習すらできない状態に陥り、中止とせざる負えない状況に陥りました。その上、ここに来て第三波の拡大が喧伝され明日への見通しも儘なりません。果たして何時になればこれまで通りの活動が再開できるのか本当に心配であります。

我々シニア大学は基本的にはFace to face によって仲間の融和が保たれておりますことは言うまでもありません。私どもが恐れられていますのはこうした状況が改善されなければ人と接することへの不安感から生ずる一種の一步引いた行動になってしまうこ

とであります。

皆様に明るいご報告をさせていただきます。と申しますのは我が岩協に新しい仲間が加わる事となりました。第十五期の十数名の皆様が校友会に加入して頂けることになりました。十六期の皆様にも誠意加入に向けての努力を続けております。これで新しい血のつながりができましたことを皆さんと共に喜びたいと思います。どうかこれからも新しい仲間と共に岩協の発展に向け共に歩んでまいりましょう。

諸葛孔明の書に次のような一文があります。

「鞠躬尽力・・・死して後已まん」
いささか大げさな言葉ではありますが、差急に今後の岩協の運営に各期から選出いただきました理事の皆様と共に、この困難な問題に「鞠躬尽力」の気持ちで邁進してまいる所存であります。

校友会の皆様。どうか気持ちを一にして我が岩協の未来のために頑張らしましょう。心からご協力をお願い申し上げます。

「岩協GG大会回顧」

十二期 実行委員

本年度は新型コロナウイルス騒動に何かと振り回されることが多い年となり、協議会主催の年間行事も殆どが中止や延期となるなかGG大会のみが当初予定通りに開催される行事となり、それではと鬱憤を晴らすべく秋の青空の下での開催を願う準備を進めておりました。

参加者の各期内訳は、二期4名、四期4名、五期4名、七期9名、八期15名、九期8名、十一期9名、十二期10名、の総勢63名。

男女の区分は男性31名、女性32名とほぼ均等した比率でありました。また協議会からの予算で参加費は無料での開催となりました。表彰の形式も男女別に上位者五名を選出するものへ変更して行うこととしました。

大会当日が近づくと同時に待つてましたとばかりに台風十二号が発生し開催が危ぶまれる日々が続く、気を揉むなか当日を待つことになりました。

さて、こうして迎えた大会当日

は、祈りが通じたのか皆さんの平素の行いが良かったのか、朝には夜来の雨も止み、曇り空ではありましたがグラウンドコンディションも競技には支障のない状態で、終日雨が降らないことを祈りながら令和二年九月二十四日（木）定刻通りに大会を開催する運びとなりました。

大会委員長瀧田会長のユーモアとウィットに富んだ開催の挨拶に始まり、九期の町田さんによる競技規則の説明、続いて我々昔の若人にとっては最も重要であります準備体操を十二期の増田さん指導の下全員参加で行い開会式は終了、十三時三十分、号令一下競技がスタートしました。

今回は皆さんに、新型コロナウイルス対策として三密の回避、マスクの着用（プレー中は任意）プレー中のハイタッチ、ハグ、大声等発生の自粛等をお願いしていたためか、当初は闘志を内に秘めた静かなスタートとなりました。

しかしそこは普段気心が知れた校友会メンバー同士、闘志は内に秘めた真剣勝負ながらも徐々に

に笑顔がこぼれる様になり和気あいあいのなか順調にホール数をこなし前半が終了しました。



一段と熱気を帯びた後半戦では天気も味方し時折日が射すまでに回復、各組にこやかな中にも真剣な眼差で前半戦にも増しての

接戦をこなし、全三十二ホールの競技を終了することが出来ました。接戦を制した男女別の上位五名の選定、ホールインワン賞、ラッキー賞等厳正なる集計作業を経て、表彰式が行われ入賞者には瀧田実行委員長よりそれぞれ賞金が授与されました。

女性優勝者は十二期 小林喜代子さん、男性優勝者は八期 三井健三さん お二方にはそれぞれ優勝のスピーチをいただきました。入賞者の皆さんは満願の笑みでした。

ホールインワン賞はなんと24名の方が獲得され皆さんの技術の高さに驚かされ、ラッキー賞は十名の方が当選致しました。最後に大会実行委員長であります十二期の森会長より閉会の挨拶があり十六時三十分予定通り無事終了となりました。

末尾になりましたが、大会開催に際しご支援・ご協力を頂きました皆様に対し厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。



「大宮公園」周辺の散策

二期 藤森 正代

11月5日(木)、二期校友会の仲間9人と大宮公園周辺の散策を行いました。新型コロナウイルス感染症のため、多くの活動が中止になる中、久しぶりに行われた屋外での活動でした。

まずは「大宮」の地名の由来とされる埼玉県屈指の古社『武蔵一の宮・氷川神社』を訪れ、コロナ禍の早い終息と健康を祈願しました。



境内では菊花展が開催されて

おり、本殿前では七五三の親子の姿が見られました。

次いで公園内をゆっくり散策しながら、『県立歴史と民族の博物館』に向かい、企画展で新しく本館の収蔵品に仲間入りした「新収集品展」を見学後、更に常設展示室を見て回りました。

昼食は公園近くの和風レストランで談笑に花を咲かせながら美味しくいただきました。当日は雲ひとつない秋晴れの爽やかな陽光の下、マスクとソーシャルデスタンスのルールはしっかり守りながらの楽しい散策でした。

「メレ・フラ・ニキ」の活動

二期 白砂 丈士

二期校友会が誇る歌とフラダンスのチーム「メレ・フラ・ニキ」は会員相互の親睦と岩槻協議会文化祭への出演を目標に平成22年に18名ほどの参加者を得て結成されました。

結成時、フラダンスの経験者が殆ど居なかったため、ゼロからのスタートでしたが、熱心な練習の甲斐があつてめきめきと力をつ

け、文化祭の演芸発表会に昨年度まで8年連続で出演し、その演技に高い評価を頂いております。

その他にも連合会の芸能発表会や大宮協議会の演芸発表会にも数多く出演し、レパートリーも懐メロからハワイアンまで10数曲にも及んでいます。



今年度は岩槻協議会文化祭と連合会文化祭が新型コロナウィルス感染症のため中止になり、発表の機会を失いましたが、フラダンスを愛する仲間が月2〜3回程度集い、コロナ対策を講じながら健康フラを楽しんでいます。

栃木の郷土料理「しもつかれ」

四期 阿久津 あき子

みなさんこんにちわ！

二月二十七日(木)「梅と食事を楽しむ会」を最後にしばらくお会いできないでいますが、緊急事態宣言も解除されホッとしていふことと思えます。まだ外出自粛生活は続きますがもう少しの辛抱です。頑張りましょう。

栃木の郷土料理「しもつかれ」をご紹介します。

二月の最初の午の日(初午)に穀物の豊作を願って神様にお供えしたのが起源です。

鎌倉時代から県内で作るようになり、江戸時代の半ばから末期にかけて多くの家庭に広がりました。

材料は鮭の頭、節分に巻いた煎り豆酒粕、大根、人参、油揚げです。鮭の頭は一晩水につけて塩抜きをし、弱火でぐつぐつ煮ると骨まで軟らかくなります。そこに大根と人参を鬼おろしで粗くすりおろします。

その後煎り豆、油揚げを入れ、煮込んだ後に酒粕、塩味酢で味を調えます。

一日がかりの作業になります
が、口に入れると鮭の旨味、根菜
と酒粕の甘み、煎り豆の香ばしさ
が口の中に広がります。



大根 人参 鬼おろし 鮭の頭

煎り大豆

赤飯 しもつかれ

赤飯としもつかれを実家の氏
神様に供えた幼い頃の懐かしい
郷土料理です。

名前の由来は栃木県の旧国名
である「下野」、味が良く染みて
いることを意味する「しみつかれ」
など諸説あります。

待っていてくれる友人、仲間に
お裾分けする私の大事な二月の
行事です。 (六月五日投稿)

「しもつかれ」を拝読して



鎌倉時代から伝わる郷土料理
を今も続けていることは素晴ら
しいですね。氏神様にお供えして
仲間にお裾分け、日本の良い風習
が今も残っていることに驚きま
した。

これからも続けて欲しい郷土
料理に乾杯です。 中山 照男



私の郷里も栃木北部なので
「しもつかれ」とても懐かしく拝
読しました。

その時期「花市」がたち駅前通
りには沢山の露天商が立ち並び

「花市」と「しもつかれ」を目当
てに親戚や知り合いが訪れ毎年
子供たちにとつてはとても楽し
みな行事でした。 渡辺 幸子



コロナ禍で各事業が中止にな
り、会員の交流が出来なくなりま
した。そこで四期ホームページの
投稿欄を通じ、日常生活を紹介し
合い交流しております。その一部
をご紹介します。

「元気をもらおう

学童ボランティア」

五期 深澤 英男

新型コロナウィルス感染拡大
は私達の日常から多くのものを
奪った。健康づくりのクラブ活動
や発表会、ボランティア活動も出
来なくなった。長い間学童「上里
小学校」の登下校見守りボランテ
ィアをしています。それが昨年は
コロナで4ヶ月近く活動が中止、
緊急事態宣言を経て6月に再開
となったが、当初は各学年午前午
後に別れての変則授業、夏休みも
短縮され、学校も生徒も苦勞した。
見守り活動もそれに合わせて

再開。久しぶりの学童たちとの出
会いはうれしかった。新生一年生に
「おはよう」と声をかけると確か
めるように澄んだ目で見つめら
れる、それが挨拶だ。下校して帰
りの学童は朝の登校時と違って



開放的になる。ワイワイガヤガヤ、
賑やかな帰宅風景だ。普段道で出
会い「ボランティアのおじさんだ」
と声をかけられた時はうれしく、
元気をもらっています。

いま、見守りボランティア活動
は参加者の高齢化と人手不足が
大きな課題となっています。

「方丈記を読んで」

五期 菅 照代

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。方丈記はこのように書かれていきます。我々の人生も水の泡のように全てが消滅を繰り返して、変わらぬままという事はない。長明自身物心ついてから思いもよらぬ世の出来事として、竜巻、大火、都移り、大飢饉、大地震を上げています。しかし人々は、その時はこの世のはかなさを口にするが歳月が経つと忘れてしまおうと記しています。鴨長明は下鴨神社の家に生まれました。父母が早くに亡くなり、社交的でない等、性格に問題があった為、親戚の反対があり神職を継ぐ事が出来ませんでした。和歌や琵琶に才能があり、宮中に上がる事がありました。その後、名前は歌壇より消えたのです。50歳の春出家。60歳の頃、広さわずか方丈(約5畳半)の庵を日野山に作り、その時に方丈記が書かれたと思います。いろいろなしからみから解き放された身となったのです。小屋に住み、遠く下鴨神社の方に流れていく河

を見ながら長明何を思ったのか。ゆく河の流れは長明の苦悩の多い人生と共にあったという事なのだと思われれます。

「将棋を世界に広める」

七期 新聞 満

私の趣味は将棋です。そしてNPO法人の「将棋を世界に広める会」に加入して10年になります。近年は欧州でも将棋の愛好者が多くなって欧州将棋連盟が結成され、各地で将棋大会が毎年盛大に開催されております。



私は2011年のドイツ大会以降、ポーランド、ミンスク、ブタペスト、プラハなど、毎年出かけて将棋大会に参加するとともに「将棋を広める」活動を楽しんでいます。大会は「ヨーロッパ選手権戦」「早指し戦」「国別対抗戦」「世界選手権」などがあり、各国から百名以上が参加者して3日間かけて対局します。



トの「将棋駒」と「扇子」持参し、対局しながら渡しますが百円シヨップ品などに大好評です。駒や扇子の漢字は彼らにとつて奇異な文字で珍しくて欲しくなるのでしよう。

最終日のパーティーでは郷土料理と特別の地ビールで乾杯し、夜遅くまで友好を深めます。その光景はいつまでも私の心に残っており、大切にしています。

尚、詳しくはネットの検索で「ミンスク将棋大会」をご覧ください。(私の投稿です)

「仲間との友好が消えた日」

八期 大澤 功

八期校友会が8年を終わりに9年目を迎えようとしていた矢先の一月半ばから新型コロナウイルスの感染の影響で県や市、区、自治会の講演会や研修会が中止となる。それに加えて八期の会長はじめ役員、クラブの部長、各班の班長の努力で色々活動計画を立てて実行目前にして中止、または延期となり本当に残念である。ただ参加する私としてはリーダーの皆様には申し訳ないと思います。

私は現地の子供達にプレゼン

不要、不急の外出の自粛要請を受け外出は、買い物と仕事しかなくなりました。グラウンドゴルフ、百歳体操の活動も中止のため運動不足となってしまった。



成人病と付き合って37年、腰痛は13年、膝痛とは3年と新型コロナウイルスにやられたら、ひとたまりもないと思う。今は新型コロナウイルスの早期収束を願って、来期に向けて健康維持に努めています。

「コロナ」とともに

九期 中澤 良行

中国武漢で発症した「新型コロナウイルス感染症」は瞬く間に世界中に蔓延して一年過ぎようとしています。収束の目安が付くどころか日々感染者は増大し、国内は第3波到来、感染者も15万人に達する勢いです。その上従来に比べ重症感染者数も増加傾向にあり分科会では「助けられる命も助けられなくなる」と医療崩壊の危機感を訴えています。

コロナ禍に対する政府の対応は初期から後手後手で、国民は不安の中自粛の日々を送っている現状です。コロナ禍で落ち込んだ観光業界の経済支援の一策として、GOTO トラベル、GOTO イーフトが実施されていますが、政府は経済回復と感染対策間の重点のおき方に統一性を欠いているように見え、政府と自治体のバトルにうんざりするのは私だけでしょうか。人が移動するGOTO政策は感染者増大の一因とも考えられますので中途半端な政策は無用で、一時すべて中止し、今は感染増大を防ぐ時ではないかと

思います。

新型コロナウイルスに勝つには、ワクチンと治療薬の開発が不可欠です。世界の医薬品業界は両者の開発に取り組み、現在ワクチンの開発が各国で先行し近い将来臨床の場で使われる段階まで来ていると報道されてきました。その一つに米国ファイザー社が開発したワクチンは遺伝子を使った新しい形のもので95%の予防効果が確認され、英国政府が緊急承認する方針を打ち出し、米国でも緊急時の使用許可を申請中で、両国とも近く接種が始まるでしょう。ただ弱点は輸送や保管にマイナス70度の保持が必要な点でその点が大きなネックになりそうです。一方英国のアストラゼネカ社も開発が進んで、効果と安全性は確認されているらしく、これもやがて実用化される日が来るでしょう。

厚生労働省は米国ファイザー社から六千万人分、英国アストラゼネカ社から一億二千万人分のワクチン供給を受けると報道しました。海外で第三相臨床試験の結果有効性、安全性が確認された

としても、「種」が異なれば有効性、安全性が必ずしも同一とは言えない場合がありますので、日本では別個臨床試験の在り方を検討し将来に禍根を残さぬことが重要でしょう。

人類は必ずこの見えない敵に打ち勝つ日が来るのは明白です。「コロナ」と共に新しい生活様式の中で自粛し、しばらく時間を待ちましょう。

この会報が皆さんの目に映る頃にはコロナ禍の収束が近いことを願っています。



「菖蒲、紫陽花そしてランチ」

十一期 森 福男

六月十五日、数か月ぶりに電車で集合場所の大宮公園駅へ、梅雨の時期とはいえ暑い日差しの中をゆつくり歩き、久しぶりの交友会活動で近場の大宮第二公園へ菖蒲と紫陽花を觀賞してきました。

マスク姿の10数名での参加、菖蒲は終わりがけていましたが、ベンチで暫く世間話に花が咲いた後、記念写真パチリ！そして梅の実の落ちた路を通り見ごろの紫陽花のブルーに染まった回廊を眺め花散策を楽しみ、次にお待ちかねの予約しておいたレストランへ。

昼時ですが店内の客足はまだまだ：空席が目立ちます！三密対策の関係で3か所に分かれての食事。これもご時世で止むを得ないですね！

各テーブルどんな話題で盛り上がったのか？私達のテーブルでは、もっぱらマスク談議…。自粛、我慢の生活から解放され大いにストレスや運動不足の解消になったのではないかと思います。



久しぶりの顔合わせで、おしゃべりに花を咲かせた笑顔が一番の収穫ですね！
次回の予定を楽しみに解散しました。

今まで経験をしたことのない試練を乗り越える為にも、少しでも多くのコミュニケーションを取る必要性を感じます。仲間との触れあいの大切を感じました。来期こそは大手を振って、マスクを外し自由に動き廻れる日常に戻れることを願います。

「十一期GG大会」

十一期 石塚 章隆

新型コロナウイルスの為各種の行事が中止、延期になる中、今年も健康活動、十一期GG大会を9月16日に開くことが出来ました。

猛暑も一段落の感じで空の色も青々とし気持ちの良い朝だ。右コートでは近くの人たちの大会らしく、会場準備も終えて待機している。

我々も手分けしてホール・ボストの配置など終え9時過ぎに開会式、会長の挨拶、記念撮影の後、広い緑の芝コートで我ら11名は三密を避け運動できることに感謝しつつ「プレーボール」

年に一度の行事のことで色々あり、「スタート表示板」が無かったので芝に埋もれたマットを探して、あちこちへ。芝の長さ？自粛生活で体が鈍ってしまっただ？ボールの進みが悪く悪戦苦闘の連続。それでもホールが進むにつれて5打を続けていた人も「2打で入った」遠くからは「ホールインワン」の声、楽しく前半を終了。

皆さん久しぶりの運動で疲れたか3ラウンドで終了の判断、結果は力強く試合を進めた中島さんが優勝。



次回の開催時には、ホールインワンした時や微妙な距離を決めた時など大きな声でハイタッチ出来る世になって欲しい。それまでは、新型コロナに感染しないよう自粛し生き抜きましょう。

「パソコンクラブ紹介」

十二期 河内 良子

十二期パソコンクラブは現在、講師の先生2名、部員9名で、毎月2回、桜木町の活動ステーションを使って活動しています。部員は十二期生5名、十四期生3名、北大宮校所属1名と十二期に限らず門戸を広げています。



大学入学以来5年目に入り、さぞかしパソコンの腕前も上達し、もう勉強することがないのではとお思いの方、ご心配ご無用です。そこは平均年齢70歳を超えると、数か月前のことはもちろん前回

習ったことまでもが今週は全く初めてのことのよう思えてしまうのです。

それでも、ワード、エクセルに続いてプログラミングにも挑戦しました。

小学校の授業で採用されるというプログラミング、孫に自慢したくて頑張りましたが、なかなか思うように動いてくれません。それでも簡単なゲームが出来上がった時の喜び。

この年齢になってもまだまだ新しく覚えることがいっぱいあります。やればやるほど、パソコンの楽しさにはまっているのは私だけでしょうか。

コロナ禍で活動ステーションの使用にも制限がありますが、これからも記憶力低下を防ぎ、脳の錆つきを少しでも遅らせるため、パソコンと仲良くしていきたいと思っています。

「イタリアの白川郷

アルベロベツロ思い出の一枚」

十二期 細野 道子

イタリア南部にある世界遺産アルベロベツロのトウルツリは、

白い壁に尖った可愛い建物で、まるで「おとぎ話」の中にいるような感覚が味わえる場所です。

日中の景色も良いですが、夜はライトアップされて、とても幻想的でした。

日本の世界遺産・白川郷がある岐阜県白川村とも姉妹都市提携している、とっておきの観光地です。その時の感動を残した一枚です。



十二期校友会

「木目込み千支人形作成講座」



指導：森田人形店

「俳句」

山賀章(2期)

サクサクと落葉小気味よき音す

傘寿近し免許更新冬ぬくし

七五三の写真撮影祖父母かな

「川柳」

八期 松本 正司

散歩道ここはどこかと急ぎ足

階段でエスカレータか足を止め

小カラスやごみ箱あさり肥満鳥

呑み助は猪口よりコップ可愛がり

呑み助は今日飲まぬとハイボール